

平成 26 年 10 月 27 日

かわさき水ビジネスネットワーク  
第 2 回環境分野連携検討ワーキンググループ次第

- 1 あいさつ
- 2 議題
  - (1) 第 1 回 WG の論点整理
  - (2) 川崎市環境局における取組例について
  - (3) (仮) かわさきグリーンイノベーションクラスターへの要望について
  - (4) その他

---

[資料]

- 1 かわさき水ビジネスネットワーク環境分野連携検討ワーキンググループ (※)
- 2 川崎市グリーン・イノベーション推進方針概要 (※)
- 3 (仮) かわさきグリーンイノベーションクラスターについて (※)
- 4 かわBizネットと環境分野との連携 (※)
- 5 第 1 回環境分野連携検討ワーキンググループの論点整理
- 6 公募型共同研究事業のご案内
- 7 (仮) かわさきグリーンイノベーションクラスターとかわBizネットの連携について (素案)

※ 資料 1～4 は第 1 回 WG で配布したものと同様

## 第1回環境分野連携検討ワーキンググループの論点整理

## 1 ワーキンググループについて

別紙資料1により説明

◇質疑なし

## 2 (仮称)かわさきグリーンイノベーションクラスターについて

別紙資料2, 3により説明

◇質疑なし

## 3 かわBizネットと環境分野との具体的な連携内容について

別紙資料4により説明

◇主な意見・疑問点など

(期待することなど)
①水以外の分野との連携が可能となる点が心強い
②環境分野で連携した海外の都市への参入可能性に期待
③住民の啓蒙活動など企業では経験のない分野で行政との連携を期待
④環境分野は国の様々な省庁にまたがるため、川崎市のそれぞれの局が有する国等とのパイプの活用に期待
⑤クラスターに参画する企業の技術の把握、自社技術・製品をアピールする機会があると協業にもつながる。
⑥水分野と環境分野のパッケージ化という視点は新たな世界が開ける
(疑問点など)
①GIC が対象とする「環境」が幅広く、具体的にどのような技術・事業なのかがかみづらい
②GIC に関してもう少し具体的な形を見たい
③GIC とかわBizネットの守備範囲が分かりづらい。
④GIC は全市横断的な位置づけになる場合、かわBizネットとの関係はどうなるのか
⑤GIC とかわBizネット双方に参加した場合の情報提供の二重化への懸念

# 川崎市 環境技術産学公民連携 公募型共同研究事業のご案内

市と参画主体が互いにメリットのある仕組みを目指します！！  
(Win-Win 型の共同研究事業)

この事業は、産学公民連携による環境技術開発等の共同推進体制を構築するための共同研究事業です。川崎市は、参画主体に対して研究に必要な場の提供や環境技術開発等の契機創出を行うことで環境技術等の研究・開発を支援し、成果を地域社会に還元するとともに、環境技術・環境研究の集積に繋げることを目指します。



## 募集するテーマ及び共同研究の枠組み

・環境技術を通じて川崎市内の環境改善、環境技術・環境研究の市内集積につながるもの、川崎発の環境技術開発・環境関連研究を促進するものが、本共同研究の対象になります。  
・科学技術、人文・社会科学のどちらの分野でも対象となります。

研究分野（川崎市の行政課題の解決等に役立つもの）

低炭素社会の構築

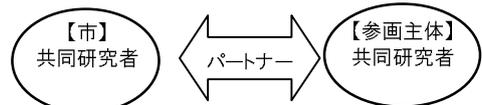
循環型社会の構築

安心・安全で質の高い  
社会の構築

自然共生型社会の構築

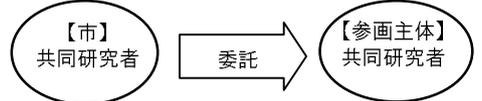
## 共同研究の枠組み(環境技術産学公民連携共同研究事業)

市と参画主体は、**共同研究者**として、相互に協力し、両者ともメリットを得る対等な関係で事業に取り組みます。



## 委託事業

共同研究内容のうち、**川崎市の抱える行政課題を勸案の上、特定期間内に成果を得ることが期待できる研究内容**については、参画主体に**研究を委託**します。



## 研究費用

特定期間内に成果を得ることが期待できる研究事業については、川崎市から参画主体に研究を委託し、**200万円を上限**に研究に必要な経費を負担します。

## 申請者の資格、要件等

環境技術について研究を実施するに足りる十分な能力を有し、市をフィールドとした環境技術に関する研究を推進できる企業、大学、研究機関、NPO 団体等（個人、任意団体は対象となりません。）

## 共同研究事業の流れ



4月～7月

### 共同研究事業の募集、審査、決定

- 共同研究事業の募集
- 市と申請者の双方にとって有意義な成果が期待される研究事業の審査、決定

7月～翌年2月

### 共同研究事業の実施

- 市と参画主体の双方がメリットを得ることを目指して実施
- 参画主体とともに、共同研究事業紹介等に係る各種セミナーなどを開催

翌年3月

### 共同研究事業の成果取りまとめ

- 成果報告会の実施
- 報告書の取りまとめ

### 事前相談

- 共同研究に係る事前相談への対応（随時）
- 実証フィールドの有無や関係部局との事前調整

※研究事業の年間スケジュール（例年実績）

## 主な共同研究事例

- 地中熱利用空調システムの開発（平成20～22年度）：共同研究者 JFE 鋼管(株)、JFE スチール(株)、JFE エンジニアリング(株)

#### 【川崎市が提供した資源】

- ・研究フィールド(南河原こども文化センター)の提供
- ・情報発信 など

#### 【共同研究者が提供した資源】

- ・地中熱利用空調システムに関する技術
- ・各種データの収集、解析 など

#### 【共同研究】

地中熱利用システムの実務検証、環境技術の普及啓発



#### 【川崎市の成果】

- ・研究成果を地域社会に還元
- ・環境技術の集積、発信
- ・環境技術の知見の蓄積

#### 【共同研究者の成果】

- ・実機の検証、高性能化
- ・効果の検証
- ・地中熱利用空調システムのPR

- ゲーム教材の普及と新たな環境学習法の研究（平成20～22年度）：共同研究者 NPO 法人環境サプリメント研究会

#### 【川崎市が提供した資源】

- ・教育実践フィールドの提供
- ・情報発信 など

#### 【共同研究者が提供した資源】

- ・環境学習教材作成に係る知見、技術
- ・環境教育実践技術 など

#### 【共同研究】

効果的な環境学習プログラムの開発、カリキュラム構築



#### 【川崎市の成果】

- ・かわさきオリジナルの環境学習教材作成
- ・環境教育、学習の実施
- ・環境教育、学習の効果測定に関する技術、知見

#### 【共同研究者の成果】

- ・環境学習教材の検証の機会
- ・環境教育効果の測定技術
- ・環境教育状況の調査（マーケット調査）

- 浄水場の急速ろ過池にろ過砂洗浄装置を導入することによる効果の研究（平成22年度）：共同研究者 日本原料(株)

#### 【川崎市が提供した資源】

- ・研究フィールド(長沢浄水場)の提供
- ・専門的知見(上下水道局)の提供
- ・情報発信 など

#### 【共同研究者が提供した資源】

- ・ろ過砂洗浄装置
- ・検証に係る情報収集、解析 など

#### 【共同研究】

急速ろ過池へのろ過砂洗浄装置導入による効果の検証



#### 【川崎市の成果】

- ・研究成果を地域社会に還元
- ・ろ過砂洗浄技術の蓄積
- ・市内環境技術の育成

#### 【共同研究者の成果】

- ・実機による効果検証
- ・高性能化
- ・ろ過砂洗浄技術のPR

- お問い合わせ先（本事業に関するご相談は随時受け付けています。）

川崎市環境総合研究所 都市環境課 産学公民連携担当

〒210-0821 川崎市川崎区殿町3丁目25番地13号 川崎生命科学・環境研究センター3階

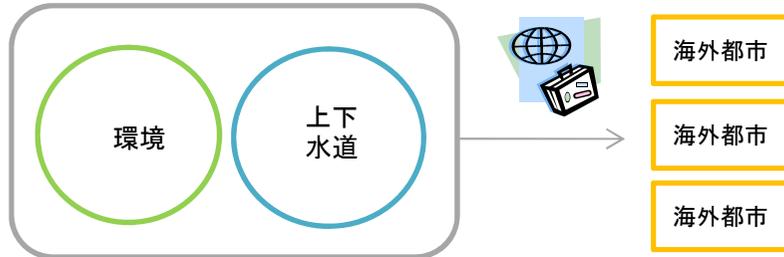
TEL:044-276-8964 FAX:044-288-3156 E-mail:[30sotosi@city.kawasaki.jp](mailto:30sotosi@city.kawasaki.jp)



# (仮)かわさきグリーンイノベーションクラスターとかわBizネットの連携について(素案)

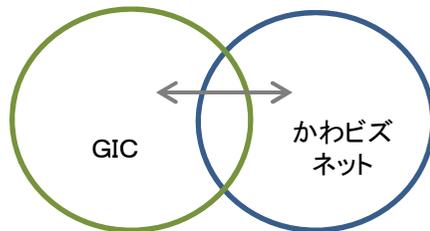
## 1 期待される連携モデル

### (1) 案件のパッケージ化



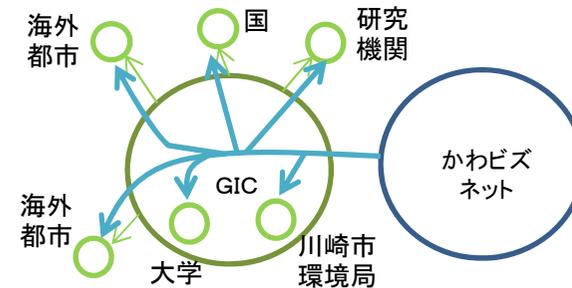
- ①水分野と環境分野をセットにした案件の提案
  - a 水質規制の必要性と下水道の整備
  - b 下水汚泥と廃棄物の混合処理
  - c 温室効果ガス削減に向けた水道・下水道の整備
- ⋮

### (3) 情報共有・情報提供



- ①GIC参画企業の技術等の把握やかわBiz会員企業の技術・製品の紹介
- ②メーリングリストによる各種情報の共有化
- ③環境分野でのFS情報の提供
- ④環境分野への参入に向けたセミナーの開催
- ⋮

### (2) ネットワークの活用



- ①環境分野で連携している海外都市への参入
- ②住民の啓蒙活動など企業では経験のない分野での行政との連携
- ③市の各局が有する国等とのパイプの活用
- ④環境分野で連携している研究機関や団体との連携
- ⋮

## 2 連携に向けた課題

- 環境分野(GIC)との連携形態について
- GICとかわBizネットの守備範囲について
- ⋮

■ (仮) かわさきグリーンイノベーションクラスター (G I C) とかわBizネットとの想定される連携体制

想定連携体制	かわBizが団体会員として加盟+個別会員としての加盟も可	かわBizが外部組織として連携
<p>想定スキーム</p>		
<p>メリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• かわBiz会員の意思決定をG I Cへダイレクトに反映させることが可能</li> <li>• かわBiz会員は、同じG I C会員であるかわBiz非会員とも環境分野で連携が可能</li> <li>• G I C内に川崎市の環境分野が包括され、環境分野・水分野の情報共有が容易になる。</li> <li>• 個別加盟も可能とし、フレキシブルな対応を可能にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• かわBiz会員毎に、G I Cに加盟するか否かの判断が可能。</li> </ul>
<p>デメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• かわBiz会員の中でG I Cに参加を望まない者もG I Cに参加することとなる。</li> <li>• かわBiz会員に対する情報提供や意見集約がかわBiz事務局を通して行われるため、タイムラグが発生する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 双方加盟する場合、二重の手続が発生し、会員の負担増加</li> <li>• G I C内の水分野との整合性を整理する必要がある。また、整理した場合でも水分野の二重構造になる懸念が残る。</li> <li>• 2つの別組織が並行して存在するため、情報の集約等の仕組み構築が必要</li> </ul>
<p>検討課題</p>	<p>会員の意向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• かわBiz会員全体に対し、G I Cとの連携体制についてメリット・デメリットを示した上で意向を確認する必要がある。特に、団体会員となる場合、各会員のG I C参加意向について配慮する必要がある。 ※G I Cの会費については当面の間無料を予定</li> </ul> <hr/> <p>かわBiz非会員との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• かわBizネットのサポートは会員に対し行うため、G I C会員でかわBiz非会員の企業と水分野で連携を行う場合の整理が必要 ①G I Cの会員であればかわBizの会員でなくてもサポートする、②希望によりかわBiz会員に登録した上でサポートする、③G I Cの会員をかわBiz準会員等にする、④個別プロジェクトへの参加であればかわBizネット会員である必要はなく (例：豪・クィーンズランド州における積水ハウス㈱の事例)、経常的な連携であればかわBiz会員になることを促す 等</li> </ul> <hr/> <p>両組織における水分野の対応の取り扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 環境分野 (G I C) と水分野 (かわBizネット) の活動範囲について、G I C側と確認が必要</li> <li>• 外部組織として連携する場合には前述のデメリット記載の通りだが、かわBizネットが団体会員となった場合でも水分野の取り扱いについて整理が必要</li> <li>• 仮に、かわBiz会員とかわBiz非会員との連携が大きな差別化がなく行われる場合には、G I Cにおける水分野の活動については、かわBizネット (事務局) と情報共有・連携を行うことが考えられる。この場合、かわBizネットの既往のノウハウや連携体制が生かされ効率的である。</li> <li>• G I Cでは国内における活動も想定しているが、かわBizネットの活動範囲は海外のみとする。</li> </ul> <hr/> <p>個別会員と団体会員の違い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• G I Cには多くの個別会員が参加することも想定されるため、G I Cの運営における団体会員と個別会員の役割の違い等についてあらかじめ確認する必要がある。</li> </ul>	